

# ブランド名は「ダイクロン」 —世界一硬い硬質炭化クロムめっき—

千代田第一工業株式会社 www.daikuron.com  
東京都狛江市岩戸北3-11-9  
TEL 03-3488-4211

「めっき」という加工業では皮膜そのものが商品名になることは滅多にありません。しかし、自社で加工した硬質炭化クロムめっき皮膜を「ダイクロン」という一つのブランドとして定着させることに成功し、さらなるめっき技術の革新にチャレンジしてきた千代田第一工業。今回は「街中の夢工場」である千代田第一工業の魅力についてご紹介します。

## 創業は今から60年近く前

今を去ること58年前の1952年に、先々代の社長であった鈴木張介氏が初期型コンピューターの開発を行うとして創業しました。その後、当時としては新技術であった硬質クロムめっきに可能性を見だし、めっき加工業者として再スタートしました。数々の試行錯誤の結果、1970年に密着性に優れた硬質炭化クロムめっきのダイクロンの開発に成功し、さらに現在では、全く新しい表面形態を持つ表面処理法などの開発等にも成功しています。



図1 狛江市の「街中の夢工場」  
千代田第一工業

## 匠の技術

創業者によって開発されたダイクロンは、現会長がさらに発展させ、そして現社長へと引き継がれた一子相伝の技術です。そのめっき浴の製法は会長と社長だけが知る秘伝の技なのです。このダイクロンの取引は、一業種一社と決めて

おり、一つ一つの製品に対し、技術者が情熱と熟練の技術をもって取り組むことがダイクロンの製品価値につながっています。また製品毎に専用の治具を制作し、使用後はすべて保管している点も千代田第一工業ならではの体制です。良いものができるまで妥協しない姿勢こそがダイクロンを支える職人の「匠の技術」といえるでしょう。さらに同社では早い時期から、納めた製品の「再めっき」に取り組んでおり、金型やロールの再利用等、物を大切に考える考え方は、現在のグリーン調達という考え方の先駆けといえます。

同社は産技研とのつながりも深く、依頼試験や技術相談を活用した、新規技術の開発に成功しています。



図2 製品の質を見極める会長と従業員

## 街中の夢工場

昨年7月から敷地内に設置した自動販売機の収益の全額を現会長の「地域ポラティアの一環として」という提案により、市の緑化基金に寄付したそうです。近隣住民とのコミュニケーションを大切にしている同社らしいエピソードです。

職人魂を込めた信頼へのこだわり、顧客・環境・資源・地域との共生こそが、「街中の夢工場」である千代田第一工業の最大の魅力なのです。

開発本部開発第二部

資源環境グループ <西が丘本部>

水元和成、浦崎香織里 TEL 03-3909-2151

内線 344

E-mail : mizumoto.kazunari@iri-tokyo.jp

urasaki.kaori@iri-tokyo.jp